

患者家族が望む看護と、  
 看護師が考える患者家族が望む看護との認識の違いに関する調査  
 —意識障害のある患者の家族に対するアンケート調査—

キーワード 意識障害 患者家族

B棟5階 ○面條仁希 西ひとみ 中村はるか 西成泰

I. はじめに

脳神経外科病棟では、遷延性意識障害や、運動あるいは言語障害など中枢性の障害を持つ患者が多い。看護師は意識障害を伴う患者や、意識清明ではなく日常生活に援助を要する患者に対して看護ケアを提供しているが、患者からの直接的な反応が得られないことが多く見られる。そのような患者に対して、我々が提供する看護が患者のニーズに添えているかどうかを判断することは困難である。そのため、患者の代弁者である家族が望む看護ケアと看護師が考える看護ケアの優先度について、認識のずれがないかを明らかにしたいと考えた。

II. 研究目的

看護師が患者の家族の望む看護を提供するため、患者家族が望む看護と、看護師が考える患者家族が望む看護との相違を調査する。

III. 研究方法

1. 研究デザイン：量的研究
2. 研究期間：2017年10月18日～2018年12月28日
3. データ収集方法：無記名による質問紙調査法（表1）
4. 研究対象者：B5・C5各病棟に勤務する看護師と、B5病棟に入院中の意識障害（JCS10以下の自分で意思を発することが出来ない）のある患者の家族
5. データ分析方法：優先度が高い項目お

よび低い項目について、選択した個数により重みづけをし、点数化した。

表1.独自に作成したアンケート項目 18項目

アンケート項目の内容
①看護師の点滴や採血などの看護技術が高い
②看護師の病気に対する知識が豊富
③看護師が患者家族に地域の福祉サービスの活用を説明してくれる
④看護師がナースコールを鳴らした時素早く来てくれる
⑤看護師が患者の体を拭くときやオムツを交換するときなどカーテンを閉めてプライバシーを守ってくれる
⑥看護師が患者の身だしなみを整えてくれる（整髪・爪切りなど）
⑦看護師が患者を散歩のために車椅子に乗せてくれる
⑧看護師が患者のベッドまわりをきれいに保っている
⑨看護師が患者に積極的に声をかけてくれる
⑩看護師が笑顔で患者に接している
⑪看護師がどの患者にでも公平に接している

⑫看護師の身なりが清潔である
⑬看護師が患者をお風呂に入れてくれる（お風呂に入れないときは体を拭いたり、手足を洗ってくれる）
⑭看護師が患者の手足を動かしたりしてリハビリをしてくれる
⑮看護師がこまめに患者の体勢を整えてくれている
⑯看護師が丁寧な言葉遣いで患者に対応している
⑰看護師が患者の病室の室温を適切に保ってくれている
⑱看護師が患者の物品を丁寧に使用してくれる

#### IV. 倫理的配慮

奈良県立医科大学医の倫理審査委員会の承認を得て実施した。承認番号 1684-3

#### V. 結果

看護師は 53 名、患者家族は 41 名の回答が得られた。

優先度の高い項目では、看護師は【④コール対応】を一番重要視しており、患者家族は【⑨声掛け】を一番重要視している結果となった。しかし、順位は違うが優先度の高い上位 5 項目で項目内容が一致していた。（表 2）

優先度の低い項目では看護師、患者家族ともに【③福祉サービスの説明】が一番優先度が低いという結果となった。また、優先度の低い項目では【③福祉サービスの説明】、【⑭リハビリ】、【⑫看護師の身なり】の 3 項目が看護師、患者家族で一致していた。（表 3）

#### VI. 考察

優先度が高い項目では看護師、患者家族ともに順位は違うが上位 5 項目すべて同じであり、優先度の低い項目では 5 項目中 3 項

表 2. 優先度の高い 5 項目

看護師 (n=53)			患者家族 (n=41)		
項目	選択数	重みづけ点数	項目	選択数	重みづけ点数
Call対応	40	143	声掛け	31	103
看護知識	35	122	看護知識	26	93
笑顔	31	115	看護技術	19	79
看護技術	29	96	Call対応	23	76
声掛け	23	74.5	笑顔	25	73

表 3. 優先度の低い 5 項目

看護師 (n=53)			患者家族 (n=41)		
項目	選択数	重みづけ点数	項目	選択数	重みづけ点数
福祉サービス	36	141	福祉サービス	22	92
リハビリ	34	118	看護師身なり	16	69
室温調整	33	117	物品取り扱い	23	68.5
車いす移乗	22	79	ベッド周囲清潔	19	55
看護師身なり	22	65	リハビリ	10	44

目が同じであった。本調査の結果より看護師と患者家族の認識に大きな相違はなかったと考える。

優先度の高い結果から看護師、患者家族ともに看護師の対応を重要視していることが分かった。しかし、上位 5 項目の中でも、看護師は【④コール対応】を最も重要視している。それは、患者から何かしらの訴えに対して迅速に対応することが重要であると認識しているためではないかと考える。一方、患者家族は【⑨声掛け】を最も重要視している。小松らは「患者は、看護者の接し方・言葉により心が安らぎを得ること

を望む」<sup>1)</sup>と述べている。意識障害のある患者は自身で訴えることが出来ないため、患者家族は、より一層看護師からの積極的な声掛けを多く望んでいるのではないかと考える。

優先度の低かった【⑫看護師の身なり】【⑰室温調整】【⑱物品の取扱い】【⑧ベッド周囲の清潔】については、普段意識せずに行っている、また患者家族は行ってもらって当然であると認識しているため、あえて重要視されなかったのではないかと考える。

【③福祉サービスの説明】や【⑭リハビリ】はソーシャルワーカーやセラピストなどの他職種が重点的に行っている印象が患者家族にはあるのではないかと考える。加えて、看護師は【③福祉サービスの説明】や【⑭リハビリ】に関しては他職種に委ねている傾向があるのではないかと考える。しかし、在宅医療が推進されている現代において、何らかの後遺症が残る患者にケアを提供する機会が多い病棟に勤務する看護師であるからこそ、入院中より、福祉サービスについての説明や、在宅に目を向けたリハビリにも意識を向けていく必要があると考える。

## VII. 結論

患者家族が望む看護と、看護師が考える患者家族が望む看護との認識に、明らかな違いはなかった。

## VIII. 研究の限界と課題

本調査は患者の代弁者である患者家族の認識の調査であり、必ずしも患者自身のニーズであるとは限らない。

また、本調査は1施設の1病棟での調査であることに加え、対象者は、頻回に面会に来ている患者家族が多く、意識障害のある患者家族全員には調査が出来ておらず、結果に偏りが生じている可能性が考えられる。そのため今後、より対象者を増やして

調査を行い、患者家族のニーズに沿った看護を提供できるよう関わっていくことが今後の課題である。

## 引用文献

1) 小松容子, 河野智江: 良い“患者 - 看護師”関係を早期に築くための要素を知る - 患者が抱く看護師のイメージ調査を実施して -, 日本看護学会論文集 看護総合 31, p. 50 - 52, 2000.